



TITLE:

スライファ博士に呈す

AUTHOR(S):

伊達, 英太郎

CITATION:

伊達, 英太郎. スライファ博士に呈す. 天界 1941, 21(237): 68-70

ISSUE DATE:

1941-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168141>

RIGHT:

スライファ博士に呈す*

米國ロイエル天文臺 E. C. スライファ博士殿

本會長山本一清博士の御紹介により、こゝに突然手紙を差上げる光榮を御許し下さい。小生は、東亞天文協會觀測部火星課長の席を汚すものでありますが、去る1939年度の火星の對衝に際し、博士が南阿ブルームフォンタイン觀測所に出張されて、撮影された驚異すべき素晴らしい寫眞觀測結果を、最近、Los Angeles Examiner 新聞紙上に於て拜見するの光榮を有し、火星面變化に關する貴論文に對し、非常なる興味を惹起致し、流石、火星觀測に世界的貢獻をなされつゝある博士並に貴天文臺の御努力に對し、最高の敬意と尊敬を表するものであります。

さて、吾々東亞天文協會火星部におきましても、去る1935、1937及1939年度の對衝に於て、8〜32纏級、屈折、反射各望遠鏡を動員して、最も良心的な立場に於て眼視觀測を遂行し、本邦に於て遊星表面の眼視觀測に精進しつゝあるものでありますが、吾々が昨1939年本邦に於て遂行しました觀測結果を、博士の優秀なる寫眞觀測に比較しまして遙に及ばざることは勿論ではありますが、博士の結論された下記5項目、即ち……

- 1) 南極冠の規則正しい縮少。
- 2) ソリス湖 (Salis Lacus) の形狀、面積の變化。
- 3) ゴメール灣 (Cimmerium 海の北西端) の著しい増大。
- 4) 大シルチス (Syrtis Major) の北西に新小湖の出現。
- 5) パンドーラ海峡 (Pandora Fretum) の消失 (又は極端な淡化)。

の中、1) 2) 3) 及 5) の4項目は確實に認めることが出来ますが、4) の新小湖は、如何にしても認め得ませんでした。

尙又、3) のゴメール灣の増大は、1939年には勿論認めておりますが、1937年度の觀測を調査致しました處、渡邊恒男君が、このゴメール灣の増大現象と共に、4) の大シルチス西北の小湖を、博士が発見せられた位置に、すでにキャッチし、スケッチをとつておりますことに氣付きました。尙、同君の用ひました望遠鏡は、京都の花山天文臺の30纏クック屈折赤道儀で、倍率は、主として420×を使用致したものであります。

それで、同君の記録中、貴説に酷似したスケッチ及び記録をピックアップして記述し、且、複寫寫眞を添付し、博士の御査閲を得て以て、御判斷御批評を仰ぎ度く、お願い申上げる次第であります。

上記渡邊君は、1936年九月17日より、1937年九月24日迄の13ヶ月間に涉つて熱心なる連續觀測により、101枚のスケッチを得、且つ1枚毎に、同君の最も良

心的な観測を爲したものであります。その中の貴説 3) に關するスケッチは No. 49, 52, 53, 56, 71, 73, 76, 79, 80, 81 及 82 に、又 4) に關するスケッチは No. 65, 68, 70, 72, 73, 74, 75 及 95 に認め得らるゝものであります。

今、もう少し詳細なデータを下記することに致します。

ゴメル灣の増大に關するもの

五月 6 日 3^h 30^m (以下全部日本中央標準時) シーリング 7~5—Cyclope 灣、著しく濃し (No. 49)

五月 9 日 1^h 30^m シーリング 6—Cerberus 灣太く濃し (No. 52)

五月 9 日 3^h 40^m 同 上 (No. 53)

五月 10 日 3^h 30^m シーリング 7—M. Cimmerium 北西部著しく濃く 2 つの Peninsula に完全分離、北端 0° 附近に迄達す (No. 56)

六月 2 日 20^h 0^m シーリング 9~10—M. Cimmerium, M. Tyrrhenum ザラザラとして濃綠色斑點狀? Loestrygon S., Cimmeria Insula, Draconis Promontorium 等鮮やかに見え、Cyclope S., Cerberus S., が非常に奇妙な形狀を示し、この邊一帶 M. Cimmerium より White Bridge により切斷され獨立してゐる。

六月 3 日 22^h 0^m シーリング 8~9—同じく M. Cimmerium の北西獨立北端 +3° 附近、ボンヤリと掴み難い形狀、Canal 2 本明らかに見える (No. 73)

六月 4 日 21^h 45^m シーリング 5~7—M. Cimmerium は濃く、Cimmeria Insula が明らか、Cyclope 灣、Cerberus 灣は共に Mare より分離されてゐる様だが判然としない。濃さが Mare に比しグツト落ちてゐる事は確實、多分之より Nubis Lacus に走る Canal が非常に太く濃い爲、見誤るのかも知れないが、Cyclope 灣も太いから、Cimmerium 海北西端 (ゴメル灣?) の異狀な變化ではないか? 枝の北端は +10° に及ぶか? (No. 79, 80)

六月 11 日 1^h 0^m シーリング 6 } 依然として海の北西端の突出著しく、太い
23^h 30^m シーリング 5 }
Canal か岬か見當が付かぬ位になつた。北端 +10° に垂んとす (No. 81, 82)

シルチス北西隅の小斑點について

五月 29 日 23^h 0^m—Nilosyrtis, Astabolas 共に明瞭、この兩者に狹まれた Syrtis の一部分獨立してゐる (No. 65)

五月 30 日 22^h 0^m—Syrtis の北西部淡いが明瞭に切斷されてゐる (No. 68)

六月 2 日 0^h 45^m—Syrtis の北西部 Astabolas の北側に何か煤けた Spot?

がある。不規則な形状、濃し、然し餘り著しくない (No. 70)

六月 2 日 23^h 40^m シーリング 10~8—Meloe 島, Corner 灣, 不規則な Condensation が認められ、丁度塵が引掛つた様な気がする。Astabolas 及 Astabola 泉 Astusapes 観測開始と同時に明瞭に見えた (No. 72)

六月 3 日 22^h 0^m —シーリング 9—凄じき静かな夜 Tyrrhenum が美しく濃緑色の斑點の集合に分離出来た!! Syrtis の北西隅にモロロとした斑點が見える何か? 錯覺を起し相な程だが確實、明確な形状の掴めぬハグユサ (No. 73)

六月 3 日 23^h 20^m シーリング 9~8—時々 静まつた折等クック 30 程に 780 倍を用ひても少しも亂れを見せぬ位。Syrtis の西側の不規則斑點は確實にキャッチ出来た。2 本の不規則狀運河が交叉點に於てまとまりのつかぬ恰好の Condensation を形成してゐるのだ!! (No. 74)

六月 4 日 1^h 20^m シーリング 6—例の Condensation 微かに擴がつて而も明瞭だ (No. 75)

六月 6 日 20^h 50^m シーリング 8~7—Meroe 島強い桃黄色で、この爲か、時々この部分が Shade されてゐる様に思はれる。Syrtis の北西隅に不規則的な Shade が見える。Astabolas, Astasapis 共に其の estuary が割に太く明らか。先端は細く極端に淡い。これは前述の不規則 shading (又は Condensation) に依るか? この日 Euphlates, Typhonis, Orontes との交點に約 1 秒間非常に淡い小斑點が 3 つ完全に見えた (No. 95)

以上の如くで、渡邊君自身も、上記の観測に關しては、充分なる自信を有しており、博士の詳細なる御説明を得ることが出来れば、これ以上の幸はないと、大ハッキリでありますので、何分博士のよろしき御推斷と、今後の御指導の程切望致す次第であります。

尙、今後は、本會においても、中口径反射屈折により、火星寫眞をも計畫致しておりますれば、何卒今後のよろしき御指導の程願ひ上げます。御指導の意味において博士御撮影にかゝる驚異的な火星寫眞若干御惠與賜らば吾人の光榮これに過ぐるものはございません。

以上甚だ無駄ながら御願ひ迄。

1940年十二月 3 日

東亞天文協會遊星面課長

伊 達 英 太 郎

* 英譯して發送された。